

私の一文字「選」

副代表幹事
間下 直晃

ブイキューブ
取締役社長CEO



自分の意思で「選ぶ」

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、間下直晃副代表幹事にご登場いただきました。

岡西 「選」は、「辵」の中に「巽」という文字が入っています。「己」は神前で2人の巫女が足並みをそろえて共に踊っている姿。そこから神様の前で踊る「選ばれし者」という意味合いに変わっていったといわれています。なぜ、この文字を選ばれたのですか。

間下 私たちの会社は、「Evenな社会の実現」というミッションを掲げています。私は結果に差は出ていいと思いますが、社会には機会の平等を求めたい。例えば、働き方が画一的だから育児や介護で仕事ができないとか、地方だから仕事が乏しい、医療・教育に恵まれないとか…。そんな不平等をテクノロジーで変えていきたいというのが、私たちがやってきたことです。その結果、何が得られるかというと、それぞれの人が働く場所や住む場所、働き方を選ぶことにつながる。選べる人生につながっていくのです。これからの日本のキーワードは「選べる」ではないかと思っていますし、理想の姿ではないかと考えて「選」にしました。

岡西 間下さんは大学時代に起業されて以来、さまざまな選択をされてきたと思いますが、「選ぶ」ことにおいて大事にされてきたのは何ですか。

間下 後悔しないよう、自分に正直に選んでいくということです。失敗もありますが、自分で選ぶので後悔しません。コロナの時代では、不本意ながら生活様式を変えたり、

選んだりしなければならなかったことが起きました。でも、変化の結果、選択肢は増え、テクノロジーはある程度浸透します。選べる余地が増えるので、コロナだからではなく、自分の意志で選べるようになります。会社員なら出社か在宅を選べるし、子どもの誕生といったライフステージが変われば、家で少しだけ働くという方法も選べるかもしれない。そういうことが可能な会社が今回のコロナで劇的に増え、結果的に生産性向上にもつながるのだらうと思います。

岡西 間下さんは42歳という若さで今年度から副代表幹事になりました。経済同友会では若い経営者を増やそうという動きがありますが、そのようなお考えはありますか。

間下 あります。組織には多様性が必要で年齢も大事な多様性。今は若手が少な過ぎます。実は、私は経済同友会入会后、敷居が高くて3年間は幽霊会員でした。あるとき、デジタル系の人材が必要だということで前代表幹事の小林喜光さんや副代表幹事の方々の話をうかがう機会がありました。小林さんは当時70歳を超えていましたが、大変弾けた方で、とても面白かった。「これからはもっと自分から入っていこう」と考え方が変わりました。若手経営者の集まりはいくらでもありますが、私たち世代に必要なのは、年配かつ大企業系の経営者とのつながりです。日本経済を握っているのは大企業トップの方々。規模が大きい大企業はマジョリティーですから。私たちは動きは速いが規模が小さい。若手と大企業のトップ経営者が融合できる組織は少ないし、互いに断絶されている感がありますが、つながりが出てくると面白い。互いに相乗効果が出てくるはずですよ。

書家

岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

